

活動報告

- 4 / 16 「ふれあいウォーク」
- 5 / 13 小林市長との懇談
- ／ 15 グリーンフェスティバル
- ／ 21 「ふれあいウォーク」
- ／ 29～6 / 5

第一回小平ガーデニング
コンテスト参加



- 6 / 4 奥多摩植樹
- ／ 5 全国一斉水の検査

/13 東京都公園協会
小金井事務所懇談

/27 「氷川通り」整備懇談会

/28 「小川緑地」整備懇談会

7/1 用水ボランティア

/16 「武蔵野荘」掃除

/17 第二回白梅 NPO セミナー

/18 「青らんぎ」祭り参加

西地区。会員によるコース検討。
小平市の環境を守る手立てとしての用水路の存在をアピールし、市長も基本的に支持、充実した話し合いとなった。
福祉会館前広場。初めて「用水路クイズ」実施。なかなかの成果を得る。
東地区。会員によるコース検討。

盛大なイベントとなりました。小平園芸組合・青年会議所のパワーは素晴らしいです。イベントが根付くことを切望します。参加してみると、土に触れ、苗に触れることの喜びを痛感します。

「青らんぎ」主催の行事に参加。急斜面での道作りと照葉樹の苗を植えた。

東京農工大 小倉教授の指導を受け、参加

①新堀・小川用水 COD1、水温19℃

②大沼田・鈴木 COD2、水温19℃

玉川上水 COD1、水温26℃

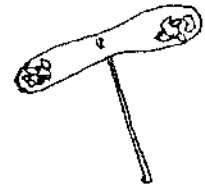
②グループには社協の「子供ボランティアスクール」卒業生6名が参加。

今後は「玉川上水を守る会」・「野鳥と緑の会」と共に、玉川上水沿道の樹木伐採に関して立ち会うことになった。

次回は8月下旬。

次回は8月下旬

砂川用水で実施。



新製品「洒落蜻蛉」が好評でした。特に子供達による独自の絵付けは盛況。来年度は「竹トンボ大会」を実施したい。



若い人たちへ

「こだいら水と緑の会」代表

馬場政孝

今の若い人たちにとって日本の社会はとても生きにくいものだと思います。価値というものがますます見えにくくなっているからです。日本社会の中で価値あるものとされているのはお金と学歴といったものでしょう。それは富とステイタスを表現したものです。これがもはや時代遅れのものになりつつあることを若い人たちは感覚的につかんでいます。

日本は明治の変革以来、国民国家、産業国家のリーダーや担い手たちを育てるために、近代的学校制度を整備し、科学と機械技術に基礎をおく西洋文明を摂り入れながら人材育成を図ってきました。学校の中でよい成績をあげた人が優遇され、彼らは官僚として国家の管理運営を担い、あるいは経営者として会社組織の上層部を形成していったのです。武士が支配していた時代は世襲制ですから、これとはまったく違うエリート養成システムが作られたわけです。日本が西洋文明をキャッチアップするためにこのシステムは日本では良く機能したと行ってよいかもしれません。こうして日本の社会には「お勉強が良くできる頭の良い子」というものに対する絶対的な価値が形成されてきたのです。

しかし、今、この価値の基盤が崩れつつあるのです。このような価値によって動かされてきた社会が生み出したものが社会全体、人類全体、地球全体を危機におとすような事態になっているからです。官僚が自己の利益のために国の予算を巧みに操作したり、会社の幹部が会社の利益を優先して社会や公の利益に反することをこっそりやったりすることが横行し、学校制度の優等生たちが小システムは管理しえても大システムには適応できなくなっています。他方、世界の場で広く活躍する日本人はイチローや宮崎駿など、学校制度の優等生とは異質な人たちが多く、将来の日本のエリートというのは彼らのような自分の得意を生かして能力を開花させた人たちではないかと予感させるものがよく見られるようになってきました。日本が階層社会であり続けることは間違いないでしょうし、国民の1%程度がエリートであるとすれば、このエリートたちの特性は「自由と個性的能力」と表現できるでしょう。こうしたものが新しい価値としてゆっくりと確実に動き出してきていると思えて仕方ありません。

今の若い人たちを社会や家庭が縛っているのはお金と学歴という色あせしつつある価値であるのに対し、若い人たちはちょっと違うんじゃないのという感覚をもっている。しかし、新しい価値の正体はいまだよくわからない。こういう状況が現代若い人たちを覆っているのではないのでしょうか。だから日本社会は若い人たちには生きにくい。

今、私に言えることは、形骸化した学校制度への幻想を捨てて、自分の得意を生かして10年でも20年でもかけて個性的能力を発達させてゆくことが真に価値あることということです。そして自分の土俵で相撲をとるということ。お勉強が得意ではないのにがんばって成績を上げろというのは、他人の土俵で相撲を取れということと同じです。

小平で見えてきたこと

高橋 奈保子

武蔵野美大に入学が決まったこと、それが私が小平と出会うきっかけでした。初めて玉川上水を歩いた時、水の流れる音や緑の鮮やかさに「ここは本当に東京なのか」と正直驚いたものです。地元千葉離れ、一人暮らしをはじめ、少しずつ「街の様子」を知る機会が増えていきました。

市民活動に触れる最初のきっかけは、大学の授業で参加したリサイクルフェスティバルのポスター製作、会場の参加でした。この時他の市民活動団体のブースを見て回る機械もあり、様々な領域で多くの市民の方が精力的に活動なさっているのを見て感動したのを覚えています。恥ずかしいことに、それまで具体的に「市民活動」とはどのようなものなのか、どういう人達が、どのような志で活動をしているのかという場面を見たことがなかったのです。



それから「環境マップ」作りへの参加を通じて、さらに小平の様々な魅力、用水路の存在や暮らしの知恵、歴史等多くのことを知る機会に恵まれました。同時に市民ボランティアの皆さんと活動を共にし、その活動内容にも強く惹かれました。小平を熟知し、常に問題意識を持ち、日々奔走している大変行動力のある人達です。街に対する思い入れ、街を皆の共通の財産として見ていなければ、このようにアクティブに動くことは出来ないと思います。

人が「街」で暮らす、ということは、その地域の一旦を担っていることであると思います。大袈裟なことではなく、「街」に興味を持つこと、様々な側面があるということを理解すること積極的に「街」に出ること・・・。「街」に出てみて、これらのことがとても大切であることが見えてきました。

これまで大学の中だけで活動していたことが多かった私にとって、この一連の活動に参加したことは大変面白い体験であり、「街」に興味を持ち、小平に対して愛着の持てた貴重な時間となりました。今では私にとって小平は、第二の故郷ではないかと密かに思っています。

活動予定

- 8/5 ○「夏休み子供ボランティア体験」参加。用水ボランティア作業。
10:00am うさぎ橋集合。社協の「夏休み子供ボランティア」からも2名参加。

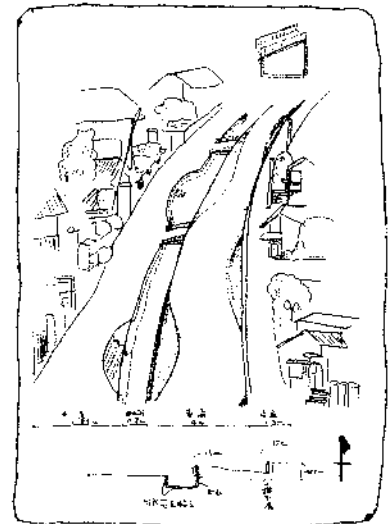
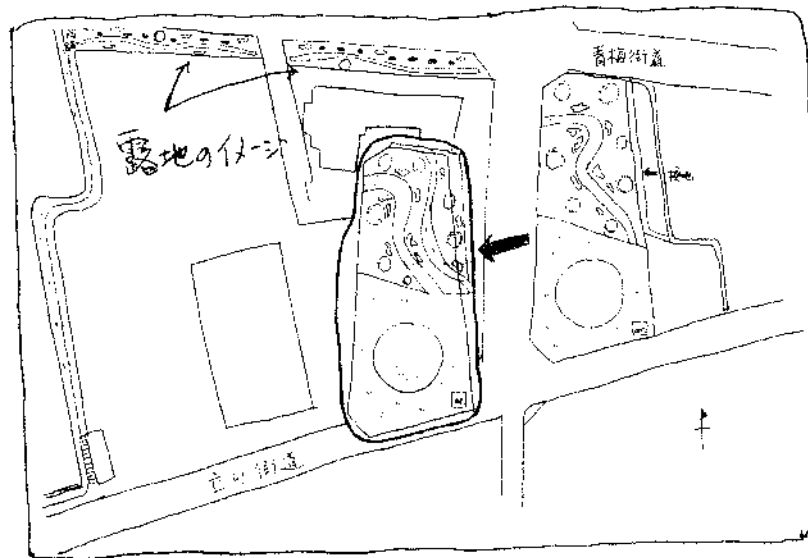
中旬 ○案内板設置
(秋に延期)上宿小学校東側の小川用水水門脇
に当会寄贈の案内板を設置します。



- 下旬 ○「氷川通り」整備懇談会 一方通行・用水路の前面開渠を提案。
○「小川緑地」整備懇談会 敷地二分の一を緑地に。水門からの総合的な整備を提案。

「小川緑地」提案図

「氷川通り」提案図



この懇談会には誰でも参加できます。小平市民の皆さん、皆で小平市を魅力的な街にしませんか？懇談会の日程は市報に掲載されます。是非多くの市民の方の斬新なアイデアを聞きたいです。

- 9/15 ○市内緑関連の市民団体との懇談会開催
緑関連の団体の初めての懇談会です。これを機に緑のネットワーク作りを目指します。皆の思いが重なれば、何かが可能になるかも知れません。

- 10/15 ○「ふれあいウォーク」東地区 10:00am 花小金井駅南口集合
開発の進む東地区ですが、案外見過ごしている用水路スポットをご一緒に辿り、小平再発見をしませんか。

○社協「子供ボランティアスクール」参加 オリエンテーション


- 29 ○市民学習奨励学級 公開講座 1:30~3:30pm

講師 東京農工大学 千賀 裕太郎 教授

題目 「よみがえれーせせらぎ！」

用水路を「せせらぎ」としてよみがえらせるために必要な整備の仕方を、地域生態学の立場から解き明かします。入場無料。

関係チラシは各公民館・地域センターに配布してあります。



「ふれあい ウォーク」のご案内
—用水路と緑を訪ねて—

遠回りから神所を見られる用水路。でも、何も知らないまま見過ごしていませんか。緑ある水辺景観としての用水路は、生活に安らぎを与えてくれます。


当会は10月と11月に「ふれあいウォーク」を実施します。開催が揃みつつある東地区と濃い緑の中で歴史を感じる西地区があります。説明もありますので、この機会に是非ご参加ください。

まだ貴方の知らない魅力的な小平が見えてくると思います。

☆ 10/15(土) 10:00am 花小金井駅南口集合 (東地区)
花小金井駅一たけのこ公園—小平ふるさと村 (見学) —あじさい公園—熊野宮—穴蔵野荘 12:00pm 到着予定、解散

☆ 11/19(土) 10:00am 東大和市駅改札口集合 (西地区)
東大和市駅—水道局小平監視所—上水小橋 (玉川上水) —たいたい (船内) 堀—小川橋—影割の谷緑道—小川用水水門 12:00pm 到着予定、解散

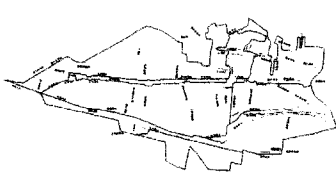
○詳しいことは市報に掲載予定です。また各公民館・地域センターにチラシを配布します。参加費は無料です。



こいだら 水と緑の会
連絡先：須賀 042-344-2507

市民学習奨励事業 公開講座のお知らせ

「よみがえれーせせらぎ！」




講師：東京農工大学大学院 総合農学研究所 水資源計画研究室
千賀 裕太郎 教授

300年の歴史を有する小平の用水路には、多摩川水系の綺麗な自然水が流れています。市内を西から東に貫通する用水路は、小平市民の心をつなぐ共有財産と言えるでしょう。この用水路を、市民の暮らしを築く重要な水辺景観として管理・保全することは、小平市の特性にもつながり、何よりも子供達に魅力ある地域環境を築くことにつながります。

用水路を市民の暮らしを築く重要な水辺景観として再生させるには、どういった整備が必要であり、またどういった点を配慮する必要があるのでしょうか。地域生態学の立場から解き明かします。

日時：平成17年10月29日(土) 13:30-15:30
場所：小平市中央公民館2階 講座室2
入場無料



共催：小平市教育委員会・「こいだら 水と緑の会」
お問い合わせ・連絡先：須賀 042-348-9772

11/19 ○ 「ふれあいウォーク」西地区 10:00am 東大和市駅改札口集合
濃い緑溢れる西地区で、用水路を辿りながら歴史の香りを堪能しましょう。

○ 「子供ボランティアスクール」 用水ボランティア 東地区

12/17 ○ 「子供ボランティアスクール」 用水ボランティア 西地区

1/21 ○ 「 “ ” 」 聞き取り体験

2/19 ○ 「 “ ” 」 竹トンボ作り

昔懐かしい竹トンボ。作り方は色々ですが、小平産の竹でトンボを作り、自分で彩色してオリジナルな夢を飛ばしましょう。
協力者求む。

3/19 ○ 「 “ ” 」 終了式

25 ○ 総会

毎月第一金曜日午前 用水ボランティア。市内用水路を順番に掃除。

第四金曜日 18時から定例会。中央公民館 学習室3。

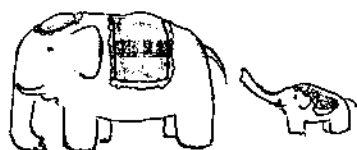
貴方にも出来ることがきっと見つかります。一人の力は小さいけど、皆の力が集まれば、出来ることが広がります。是非と一緒に活動しませんか？

小平市では毎年5月の第二日曜日に「沼さらい」を実施しています。これは、用水を利用している周辺住民が年に一度協力し合って用水路の底に溜まった汚泥をさらう作業で、地元では歴史ある行事です。この「沼さらい」自体、また共同作業後の打ち上げ、という風習は歴史もあり人々の親睦にもつながり、いいことだと思います。

しかし問題なのは、「沼さらい」のために一週間水が止まることです。もし予定日が雨ならば、さらにもう一週間水は流れません。一週間という長さは、用水路を生活場所としている水生の生物の死滅を意味します。このことに心痛めているのは、案外地元の人々です。確かに水を流せば、やがて多摩川の方から小魚などが流入はしてきますが。

以前昭島市での「水神祭り」を見学したことがあります。用水の幅も規模も小平のものと似ていますが、昭島では水を止めることなく、丈の長い長靴を履いて用水に入り、掃除していました。当会も毎月第一金曜日に「用水ボランティア」を実施していますが、長靴で用水に入り、ごみひろいをします。それだけでも用水は綺麗になります。

用水路が、かつてのように人々の生活に密接なものなら、きちんと底に溜まった汚泥を掬い取るべきでしょう。しかし、今はその役目を終え、新たに市民共有の財産としての「せせらぎ」として位置づけられるものなら、やはり自然保護の観点から水生生物のことに配慮すべきだと思います。当会は、水を止めることの中止を提言するものです。



編集後記 新会員の高橋さんが胸にグッと来る記事を寄せてくれました。嬉しい!

また、代表の「若い人へ」は異色の寄稿ですが、フリーターやニートと呼ばれる若者が増えてくる現在、彼等にこそ読んでもらいたいと思います。

ところで、目下「小川緑地」と「氷川通り」の整備について懇談会が開かれています。話は変わりますが、今では「水の都」として名高い郡上八幡も1990年には、「水路廃止」の意見が多勢だったのです。それを市民団体が覆し、市も乗って、そうしたら市民が協力したのです。その結果、「水の都」ができたわけです。小平でも夢ではありません。予算がなければ、時間をかければいいのです。ボランティアの底力で出来ることも随分あります。「環境」という言葉は多岐にわたりますが、街を綺麗にするのも一法かと思います。

編集・印刷 「こだいら 水と緑の会」

お問い合わせ 042-345-6772 馬場

